

## 法貴信也

2025 年 5 月 10 日 (土) - 5 月 31 日 (土) (※5月10日は16:00 開廊)

オープニング・レセプション：5 月 10 日 (土) 16:00 - 19:00



Courtesy of Taka Ishii Gallery/©Nobuya Hoki

MtK Contemporary Art では 5 月 10 日(土)より 5 月 31 日(土)まで、京都で制作を続ける絵画作家 法貴信也による個展を開催いたします。本展では、2024 年から本年にかけて制作された最新の絵画作品が発表されます。この機会にどうぞ高覧ください。

### 果てしない探求 —法貴信也の新作展に寄せて

「表面に付けられる最初の一筆がその物理的な平面性を破壊する」(C・グリーンバーグ「モダニズムの絵画」)、つまりその一筆とカンヴァス面のあいだに 1 枚のレイヤーが発生し、全体は単なるカンヴァス面から、「画面」というイリュージョンへと転変する、と。絵画の本質はこの「平面性」(イリュージョンを支える基盤面としてのレイヤー) だという「フォーマリズム」に対抗して、描かれた内容(ジェンダー、マイノリティ、トラウマ…)の「意味」を持ち出しても、それでは土俵を変えているだけで、フォーマリズム批判にはならない。実際、描かれたものにある種の「意味」(関係性：具象、奥行き、対称性、反復、記号など)を認知すれば、その意味が「図」となって、「図」と「地」のあいだにレイヤーが生じる。要素 A と要素 B の落差から発生するレ

イヤート、ゲシュタルトの認知から発生するレイヤーである。絵画が、薄く厚く塗り重ねられた物質（絵の具）ではなく、絵画的イリュージョンとなるためには、レイヤーと化すしかないのだろうか？そんな馬鹿な。では、それを本質としない絵画とはいかなるものか？これが法貴信也の探求である。

その探求は、紙の上に線を引く、つまり黒鉛筆の「最初の一筆」から始まった。色彩はその黒をクロマトグラフィー的に分割した、暖色系と寒色系の2色が基本となっている。2色は並走する2本線として画面を分割したり、別々に滲んでそこに空間を発生させる、と同時に画家は、2本線を逆になぞることで中空の管のようなイメージに変化させ、しみによる空間を拭き消し、また、いたるところで出現しようとする具象（顔や動物のイメージ）を中断する。レイヤーの発生とその阻止が、画面の至る所を流動化させ、宙吊りにするので、作品を見渡すとか見終わるといふことがない。かつて電子音と初めて遭遇したシュトックハウゼンは、「たった一つの音の中に何というカオスが潜んでいることか」と叫んだが、画家は、たった一つの線の中に豊かなカオスを探り当ててるのだ。絵画は巷に溢れているが、そんな画家は数えるほどしかない。

清水 穰

### 法貴信也 | Nobuya Hoki

1966年京都生まれ、京都市在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。

主な展覧会に、「美術にまつわる5つの話—いつもそこにある—」岡崎市美術博物館（愛知、2022年）、「ASSEMBRIDGE NAGOYA 2017」旧名古屋税関港寮（愛知、2017年）、「蜘蛛の糸」豊田市美術館（愛知、2016年）、「キュレーターからのメッセージ 2012 現代絵画のいま」兵庫県立美術館（兵庫、2012年）、「肌理と気配-Textures」国際芸術センター青森（青森、2012年）、「絵画の庭」国立国際美術館（大阪、2010年）などがある。

#### 「法貴信也」

会期 | 2025年5月10日(土) - 5月31日(土)

会場 | MtK Contemporary Art (京都市左京区岡崎南御所町 20-1)

営業時間 | 10:00 - 18:00 定休日：日曜日

※5月10日(土)は16:00開廊

オープニング・レセプション：5月10日(土) 16:00 - 19:00

ホームページ | <https://mtkcontemporaryart.com/exhibition/nobuyahoki/>

Courtesy of Taka Ishii Gallery

■本展覧会に関するお問い合わせ先

MtK Contemporary Art | [info@mtkcontemporaryart.com](mailto:info@mtkcontemporaryart.com) | 075-754-8677 |